● 授業科目の内容紹介

保育専攻

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
現代保育者論		**2**	**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

保育者の専門性について、今日の社会的背景及び幼児教育の課題との関連性から考察する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.テキストの講読と検討を通して、他者の保育の在り方について考察できる。
2.議論を通して、他者と自己の保育の考え方や方法の違いを考察できる。
3.自分の目指すべき保育者像を語ることができるようになる。

Ⅲ　授業の概要

共通テキストを読み、グループで検討、発表をおこなっていく。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 保育者養成の現代的意義	保育者の専門性が語られる社会的背景
2. 保育とは何か	保育の根源的理解から専門性を考える
3. 現代社会と保育者の存在意義(1)	現代社会の保育の課題を理解する
4. 現代社会と保育者の存在意義(2)	現代社会の保育の課題を理解する
5. 近代社会と専門職	専門職を歴史的視点から理解する
6. 専門職と大学	専門職の養成と大学教育の関わり
7. 教員養成カリキュラムの歴史	教員養成の歴史を概観する
8. 小学校教員養成と保育者養成	幼少の連続性を理解する
9. 専門科目と心理学と教育学	心理学と教育学の間とは
10. 保育者養成カリキュラムの課題	これまでの養成段階での学びを理解する
11. 保育実践と保育者養成カリキュラム	理論と実践を往復する学びとは
12. 幼児と保育者の関係	子どもと保育者の関係を理解する
13. ケアと保育	保育における「ケア」を理解する
14. 保育者の専門性と知	専門性の基盤の知とは何かを理解する
15. 保育者の専門性とは	まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

保育者養成論　　小川博久　　萌文書林　　2013

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他()
配点比率(%)　合計 100		40	40	20	
テキストの内容の理解と考察			○	○	
保育実践の理解と考察			○	○	
現代の保育者の課題と展望の考察		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

テキストをよく読み、問いをもって参加すること

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

発表は責任を持って行うこと。討論に積極的に参加すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育学演習		〔2〕	**保**	**1**	**加藤寿子**

Ⅰ　主題
この授業では、「子育て広場」の実践を通して、子育て支援や保育について考える。

Ⅱ　授業の到達目標
1.子育て支援活動の実践により、支援についての理解を深める。
2.子どもや母親とかかわり、子どもや母親の思いを理解することができる。
3.保育者としての役割を考え、実際に支援する力を養う。

Ⅲ　授業の概要
地域の親子が参加する「子育て広場」の活動を企画・運営し、実践しながら保育についての考えを深め理解する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1～2.	子育て支援とは何か	子育て支援のあり方を考える
3.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場①)
4～5.	保育実践の検討と準備	保育環境を考える
6.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場②)
7～8.	保育実践の検討と準備	支援内容を検討する
9.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場③)
10～11.	保育実践の検討と準備	保護者の支援について考える
12.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場④)
13～14.	保育実践の検討と準備	保護者の支援について考える
15.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑤)
16～17.	保育実践の検討と準備	子どもとのかかわりを考える
18.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑥)
19～20.	保育実践の検討と準備	子どもとのかかわりを考える
21.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑦)
22～23.	保育実践の検討と準備	親子をつなぐ試み
24.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑧)
25～26.	保育実践の検討と準備	親子をつなぐ試み
27.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑨)
28～29.	保育実践の検討と準備	親子をつなぐ試み
30.	子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑩)

Ⅴ　使用テキスト・教材等
必要に応じて資料を配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料
特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(保育実践)
配点比率(%)　合計 100%		20		30	50
子育て支援活動の理解		○		○	○
子ども・子育て家庭の理解		○		○	○
保育者の役割の理解		○		○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
保育実践に必要となる準備を、各自責任を持って行うこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
特になし

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
幼児体育演習		〔2〕	**保**	**1**	**藤田庄治**

Ⅰ　主題

この授業では、幼児の運動遊びに携わる保育者が保育現場でプログラムを立案し、実践できるために必要な基本的な知識や技能を習得する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子どもの心身の発育発達と現況を踏まえた体育教育の在り方を考察する
2.保育としての体育プログラムを考案することができる
3.段階指導及び展開方法を学び、指導技術及び技能を身につける

Ⅲ　授業の概要

この授業は、幼児体育の現状と在り方について考えながら演習を中心に展開。総合指導としての体育教育を理解し、指導できる保育者を目指す。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 講義 1	オリエンテーション・幼児の体育教育の現状について
2. 講義 2	幼児の体育教育の在り方について
3. 演習 1	マットあそびの段階指導及び展開方法①/「どんぐり山で遊ぼう」
4. 演習 2	マットあそびの段階指導及び展開方法②/「桃太郎」
5. 演習 3	とび箱あそびの段階指導及び展開方法①/「お馬の親子」
6. 演習 4	ボールあそびの段階指導及び展開方法①/「ボールで遊ぼう」
7. 演習 5	なわあそびの段階指導及び展開方法①/「へび島冒険」
8. 演習 6	なわあそびの段階指導及び展開方法②/「なわで遊ぼう」
9. 実習 1	各種目の補助法・安全対策①/課題練習
10.実習 2	各種目の補助法・安全対策②/課題練習
11.まとめ 1	実技課題の練習成果を発表する
12.演習 7	自然と子ども①/ネイチャーゲーム
13.演習 8	自然と子ども②/ネイチャーゲーム
14.まとめ 2	グループディスカッション「幼児の体育教育の在り方」
15.まとめ 3	これまでの内容を振り返る(レポート作成)

Ⅴ　使用テキスト・教材等

幼児の運動あそび　　藤田庄治

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	30	20	25	25	
幼児期における体育教育の重要性と意義	○	○		○	
段階指導法及び展開方法の理解	○	○		○	
演習における運動種目の習得			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

ジャンル別レパートリー表作成及び課題練習すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意　：　演習時においては、運動のできる服装(ジャージ・体育館シューズ)・筆記用具

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
発達心理学特論	**4**		**保**	**1**	**大村壮**

Ⅰ　主題

この授業では、発達理論や先行研究の知見を学び、発達を理解することが目的である。

Ⅱ　授業の到達目標

1.発達心理学研究を輪読し発達についての理解を深める。
2.レジュメを担当し、自分の理解を受講者たちと共有する。
3.さまざまな人に対する援助やケアのあり方を理解し、意見をもつ。

Ⅲ　授業の概要

教員を含めた文献輪読を通して、発達理論や先行研究の知見を学び、保育実習での体験と絡めて発達を理解する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項目	内容
1.	イントロ、報告順の決定	報告者の決定、レジュメ作成方法の指示
2～7.	文献輪読と報告Ⅰ	レジュメの報告と討論
8.	問を整理する	文献に関する疑問を検討し整理する
9～14.	文献輪読と報告Ⅱ	レジュメの報告と討論
15.	全体をまとめる	他の文献も含め、まとめる
16～18.	発達心理学研究を学ぶⅠ	幼児期の遊びに関する研究論文の輪読
19～21.	発達心理学研究を学ぶⅡ	幼児期の言語発達に関する研究論文の輪読
22～24.	発達心理学研究を学ぶⅢ	幼児期の人間関係に関する研究論文の輪読
25～27.	発達心理学研究を学ぶⅣ	子ども虐待に関する研究論文の輪読
28～30.	発達心理学研究を学ぶⅤ	発達障碍に関する研究論文の輪読

Ⅴ　使用テキスト・教材等

哲学する赤ちゃん	A.ゴプニック	亜紀書房	2010
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男	岩波書店	2009
心を発見する心の発達	板倉昭二	京都大学出版会	2007
発達の扉〔上・下〕	白石正久	かもがわ出版	1994・1996
乳幼児のこころ	遠藤利彦ほか	有斐閣	2011

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他()
配点比率(%)　合計 100%			40	60	
発達に対する理解と考察			○	○	
援助・ケアに対する考察			○	○	
発達に対する理解の共有			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

レポーター以外も自分の意見を言えるように、必ず文献を読んで授業に参加することを求めます。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

この授業は、年間を通して学生と教員が共同して作っていく授業です。学生の積極的な参加なくしては成り立ちません。集中して授業に参加することを期待します。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
特別支援教育論		**2**	**保**	**2**	**橋田憲司**

Ⅰ　主題

特別支援教育の理念や推進体制について概観し、幼稚園等における実践に当たっての必須事項を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.特別支援教育の仕組みを理解し、その意義について考察することができる。
2.子どもの特性に即した配慮や支援の在り方について実践的な知識を習得する。
3.「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成の必要性を理解し、事例をもとに作成することができる。

Ⅲ　授業の概要

特別支援教育は、幼・小・中・高校等のすべての教師によって推進され、障害のある子どもを含む保育・教育の質的向上を目指すものである。授業では、特別支援教育を支える理念や推進の仕組みなどについて基本的な理解を図るとともに、障害のある子どもの理解と指導・支援の在り方、個別の指導計画の作成の実際、保護者や関係機関との連携の在り方などの基礎的事項を学ぶ。講義を中心とするが、具体的事例を扱ったりグループ討議や演習などを取り入れたりする。

Ⅳ　授業計画と内容

項　　目	内　　容
1. 特別支援教育の意義	特別支援教育への転換と基本的な考え方について
2. 特別支援教育の仕組み	我が国の特別支援教育の現行制度について
3. 国内外の動向	条約の批准やインクルーシブ教育システムについて
4. 現在の障害観	「ICF（国際生活機能分類）」と障害理解について
5. 園内外における支援体制	園内委員会やコーディネーター、巡回相談など推進の仕組み
6. 個別の指導計画	作成の意義と手順について
7. 気づきと支援の在り方	①落ち着きのない子や集団行動の苦手な子
8.	②こだわりが強い子やコミュニケーションがうまくとれない子
9. （具体的事例をもとに	③知的な発達に遅れがある子
10.　　グループワーク）	④手足が不自由な子
11.	⑤視覚や聴覚、ことばに障害のある子
12. 保護者や関係機関との連携	個別の支援計画の意義と活用について
13. 就学支援	就学相談と小学校等との連携について
14. 交流教育	統合保育や交流活動について
15. まとめ（ディスカッション）	特別支援教育と保育（教育）の在り方について
定期試験	授業で扱った重要事項を中心に出題し、講義内容の理解度をみる。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。資料を配布したり、参考文献を提示したりする。

Ⅵ　参考書・参考資料

はじめての特別支援教育（改訂版）	柘植・渡部・二宮・納富	有斐閣	2014
特別支援学校　教育要領　学習指導要領	文部科学省	海文堂出版	平成 21

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・レポート	成果発表・作品	授業態度・参加貢献	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	40	30		30	
特別支援教育の意義や仕組等の理解	○	○		○	
障害の理解と実践的知識の習得	○	○		○	
個別の指導計画等の作成		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・講義やグループワークの中で必要となる事項を調べたり、レポートを作成したりする。
・指示がなくても予習、下調べをして授業に臨むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

・毎時間、授業の目標に対する振り返りを行い、小テストの他に小レポートに記入する。
・授業への貢献度を評価するので積極的な参加を期待する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
社会福祉学特論	**2**		**保**	**1**	**加藤光良**

Ⅰ 主題
本科で学んだ社会福祉に関する知識を基に、児童福祉を中心に社会福祉の仕組みや動向を学び、これからの方向性と従事者の役割を考える。

Ⅱ 授業の到達目標
1.社会福祉の制度や仕組みを理解する。
2.戦後の社会福祉の歩みと動向を学ぶ。
3.これからの方向性と私たちの役割を考える。

Ⅲ 授業の概要
テーマごとに各自またはグループで検討・考察、発表を行い理解を深める。

Ⅳ 授業計画と内容

項目		内容
1-2.	社会保障と社会福祉	27 年度予算等から社会保障と社会福祉の関係等全体像を学ぶ。
3-5.	社会福祉の仕組み	公的扶助、社会保険、社会福祉の内容と仕組みを学ぶ。
6-8.	社会福祉の歴史	福祉六法の時代から基礎構造改革を経て、現在までの動向を理解する。 措置制度から利用契約制度への転換。
9-11.	子ども子育て支援新制度の展開	新たな子供子育て支援制度の背景と課題を考える。
12-14.	これからの方向性	社会福祉制度のこれからと私たちの役割を考える。
15.	まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等
テキストは使用しない

Ⅵ 参考書・参考資料
本科の社会福祉の教科書等

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	40	20	20	20	
社会福祉の仕組みや動向の理解	○	○	○	○	
授業への意欲、積極性		○	○	○	
情報、資料等の収集、分析、考察力		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
課題について各自で資料収集・分析をしておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
日頃から社会福祉に関係するニュース等を収集しておくこと。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
家族支援演習		〔1〕	**保**	**2**	**土屋廣人**

Ⅰ　主題
家族支援の必要性を理解し、実践力を身に付ける

Ⅱ　授業の到達目標
1.社会福祉制度・関係機関の役割を理解し、支援力を高める。
2.家族を支援する際の面接スキルを理解し、身に付ける。
3.さらに、家族のニーズに応じた支援力・応用力を身につける。

Ⅲ　授業の概要
演習を中心として、授業項目ごとに検討・発表を行い、知識・技術を学習する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 家族支援とは、面接スキルの前に	福祉・教育・医療・司法・産業における支援制度
2. 家族支援制度	歴史的経過、家族形態の変化、街の家族支援制度
3. 保育所の社会的責任	保育と家族支援、児童福祉関係機関とその連携
4. 家族理解	ジェノグラム
5. 家族支援の必要性、相談とは	親子関係、困難・喪失的体験時の心の動き
6. 事例検討の方法	インシデント法 1
7. 事例検討の方法	インシデント法2
8. 事例検討の方法	アセスメント表による検討1
9. 事例検討の方法	アセスメント表による検討2
10. 支援者としての自己理解	自らの対人関係を振り返る
11. 面接スキル（雰囲気づくり）	イエスセット
12. 面接スキル（明確化）	明確化　焦点化、感想　支持
13. 面接スキル（援助の3段階）	リフレーム、解釈、ねぎらい、
14. 保育者の具体的援助活動	障がい児支援
15. まとめ	これまでの授業のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等
テキストは使用しない。必要によりプリントを提示する。

Ⅵ　参考書・参考資料
児童家庭福祉・児童心理関係の教科書を参考とする。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100		60	20	20	
家族支援制度の必要性と施策の理解		○	○	○	
面接スキルの修得		○	○	○	
個別支援の理解と対応力		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
家族支援制度や関係機関の役割等の基本的なことを復習しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
主体的な授業参加態度が求められる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
子育て支援論		**2**	**保**	**1**	**鈴木久美子**

Ⅰ 主題

多様化する子育て支援活動の現状を理解し、様々な課題を抱える少子化時代の子育て支援について考察する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子育て支援活動の現状を整理し、それを説明できる。
2.さまざまな角度から子どもや家庭について理解し、考察できる。
3.子育て支援活動に従事する保育者としてのありかたを明確にとらえることができる。

Ⅲ 授業の概要

子育て支援の現状と課題について、整理、検討、意見交換を経て、保育者＝子育て支援者の立場からの「子育て支援論」について考察する。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.子育て支援とはなにか	子育て支援の動きをとらえる
2.子育てを取り巻く社会と環境	子どもと社会の関係を考える
3.子どもの育ちの変化	現代の子育て環境を考える
4.現代の子育て家庭の状況	子育て家庭の現状を知る
5.子育て支援の多様性	さまざまな子育て支援活動を整理する
6.子育て支援の視点	子育て支援の 5 つの視点でとらえる
7.保育の場における子育て支援	保育の中の支援
8.親子関係への支援	親子の関係
9.園と家庭との連携	家庭に対する支援
10.多様な保育サービス	保育サービスの現状
11.支援活動の実践から①	園における多様な支援
12.支援活動の実践から②	地域につどう子育て支援
13.支援活動の実践から③	子育て広場の取り組み
14.子育て支援の課題	これからの可能性について考える
15.保育者としての支援とはなにか	保育者の役割について考える
定期試験	レポート

Ⅴ 使用テキスト・教材等

子育て支援の心理学　無藤隆,安藤智子編　有斐閣　2011

Ⅵ 参考書・参考資料

特になし

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100%	50		50		
子育て支援活動の現状の理解	○		○		
子ども・子育て家庭への理解	○		○		
保育者の役割の理解	○		○		

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

輪読を実施するので、担当章についてレジュメを作成すること。その他の者も、事前にテキスト該当部分を読み込んでおくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

特になし

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
子育て支援演習Ⅰ		〔1〕	**保**	**1**	**太田嶋信之**

Ⅰ　主題

子育て支援の現代的意義・使命・役割を理解し専門性と質の向上を図るとともに、子ども子育て支援新制度について理解を深め、新制度下における子育て支援の実践力を習得する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子育て支援の歴史的背景、使命、役割、必要性について理解する
2.保育現場における子育て支援活動を体験し、実践力、スキルを習得する
3.子ども・子育て支援新制度の理解と新たな課題、専門性について研究する

Ⅲ　授業の概要

子育て支援の意義,使命,役割,具体例等について講義。
子ども・子育て新制度の内容について講義。
保育所現場での実践体験。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 子育て支援の歴史的背景、意義	意義、役割、使命、具体的取組内容①(講義)
2. 子育て支援への取り組みの実際Ⅰ	具体的取組内容②(講義)
3. 保育所での実践体験①	計画立案、準備、参加等の現場実践
4. 保育所での実践体験②	〃
5. 保育所での実践体験③	〃
6. 保育所での実践体験④	〃
7. 保育所での実践体験⑤	〃
8. 保育所での実践体験⑥	〃
9. 保育所での実践体験⑦	〃
10.保育所での実践体験⑧	〃
11.子育て支援への取り組みの実際Ⅱ	具体的取組内容③(講義)
12.子ども子育て新制度の内容	子ども・子育て支援新制度の理解(講義)
13.保育士に求められる役割と資質	保育士の役割、資質、専門性　レポート作成(講義)
14.課題と展望	子育て支援の問題点と課題整理、今後の展望(講義)
15.まとめ	講義と討議

Ⅴ　使用テキスト・教材等

保育所保育指針
講師がプリントを用意

Ⅵ　参考書・参考資料

講師がプリントを用意

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小レポート	成果発表・作品	授業態度	実習
配点比率(%)　合計 100	50	20		10	20
講義内容の理解	○				
事例研究		○			
実践力、観察力					○
出席日数　遅刻等				○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

実践体験について反省、評価、感想をレポートにまとめ次回に提出

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回、保育所保育指針を持参

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
子育て支援演習Ⅱ		〔1〕	**保**	**2**	**鈴木久美子**

Ⅰ　主題

地域における多様な子育て支援活動に積極的に参加し、現代社会における子育て支援について発展的に考察することで、実践力を身につける。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子育て支援の必要性を学び、子育て支援への理解を一層深めることができる。
2.子育て支援の多様性を学び、いま、求められている支援のあり方について考察できる。
3.自らが子育て支援を企画・運営することで、実践力を身につけることができる。

Ⅲ　授業の概要

これまでの学びを整理したうえで、実践的な子育て支援活動に積極的に参加し、多様な人々と出会い関わり、各人の考察をもとに理解を深め、実践力を身につける。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	子育て支援とはなにか	子育て支援の多様性を理解する
2.	地域の子育て支援を知る	どのような場や機関があるかを知る
3～4.	多様な子育て支援(1)	行政による子育て支援の内容を知る
5～6.	多様な子育て支援(2)	行政以外の子育て支援の内容を知る
7～8.	保護者の子育てネットワーク	障がい児をもつ家庭のネットワーク活動に参加し、保護者と子どもと関わる
9～13.	子育て支援活動の企画・運営	子育て支援活動を企画・運営する
14～15.	自由討議	子育て支援をめぐる問題の整理とディベートの実施
	定期試験	レポート

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。

Ⅵ　参考書・参考資料

授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	10	20	20	
子育て支援についての整理と理解	○	○	○		
支援のあり方についての考察	○	○	○		
子育て支援活動への参加とその姿勢			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

子育て支援の企画を作成、終了後は活動参加記録を作成すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

主体的な参加ができない場合は、出席を認めないこともある。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
子育て支援演習Ⅲ		〔1〕	**保**	**2**	**遠藤知里**

Ⅰ　主題

子育て支援演習Ⅰ、Ⅱでの学習を踏まえて、子育て支援の場づくりに必要とされる援助技法およびマネジメント方法を実践的に学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子育て支援事業の企画から評価までの方法を理解する。
2.人が集まる「場」づくりに必要なマネジメント力を身につける。
3.人が集まる「場」づくりに必要なファシリテーション力を身につける

Ⅲ　授業の概要

「仲間を巻き込む」「人と人とをつなぐ」ことを、事業の企画・運営・評価の実践を通して学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.「場」を創るとは？	思いを形にすること
2.企画の基本	人・時・金・コンセプト　5W1H
3.マネジメントの実際	広報　参加者募集
4.マネジメントの実際	リスクマネジメント　保険
5.マネジメントの実際	「資源」を活かす　資金調達
6.ファシリテーション・トレーニング	お互いを尊重する環境
7.ファシリテーション・トレーニング	グループの発達段階
8.ファシリテーション・トレーニング	ふりかえり
9.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
10.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
11.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
12.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
13.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
14.子育て支援活動の企画と実践	プロジェクト
15.評価　まとめ	全体のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

教科書は使用しない。

Ⅵ　参考書・参考資料

必要に応じて資料を配付。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	計画書・報告書（小レポート）	企画運営の実践（成果発表）	授業態度	その他（貢献度）
配点比率(%)　　合計 100		30	40	20	10
事業の方法理解（企画と評価）		○		○	○
マネジメント力を身につける			○	○	○
ファシリテーション力を身につける			○	○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

日頃から多様な子育て支援の場に関心を持ち、情報収集を行う。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

長期休業中または週末等にまとめて実施することがあるので、その際は各人の予定の調整を求めます。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
幼児音楽		〔2〕	**保**	**1**	**宮下友美恵**

Ⅰ　主題

幼児にとって音や音楽との出会いはとても大切なものであり、音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わうことは、幼児の豊かな感性を育むことにつながる。そこで、この授業では、幼児の発達に応じた音楽の指導方法について学ぶ

Ⅱ　授業の到達目標

1.幼児の音楽教材について学び、発達に応じた教材を選ぶことができるようになる
2.幼児に対する音楽の指導法を理解し、適切な指導ができるようになる
3.さらに、伴奏の工夫や、編曲、遊び歌の創作ができるようになる

Ⅲ　授業の概要

幼児の歌や楽器遊びの教材について学び、年齢に応じた教材を選択する力を養ったり、具体的な奏法や指導法について学ぶ。グループで器楽合奏の編曲を行い、実際に演奏したり、オペレッタを演じたりする。また幼児に適した遊び歌を創作し、発表しあう。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	オリエンテーション	授業の内容と進め方について
2.～5.	歌の指導	歌唱教材と指導法についての理解
6.～7.	伴奏法	幼児の歌唱における効果的な伴奏の理解
8.～9.	遊び歌の指導	遊び歌の教材と指導法についての理解
10.～13.	遊び歌の創作	遊び歌を作詞・作曲し、発表しあう
14.～15.	楽器奏法	楽器の奏法についての理解
16.～21.	器楽合奏の指導	器楽合奏の指導と編曲についての理解
22.～27.	オペレッタの指導	オペレッタ教材と指導についての理解
28.～30.	音遊び	音遊びの指導
30.	まとめ	これまでの内容のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

子どもの歌　　常葉学園短期大学幼児音楽研究会　編
続『こどものうた 200』　小林美実編　　チャイルド本社

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(実技)
配点比率(%)　合計 100			40	30	30
歌唱教材の理解と指導				○	○
遊び歌の指導と創作			○	○	○
器楽合奏の指導と編曲			○	○	○
オペレッタ教材の理解と指導			○	○	○
音遊びに対する理解と指導			○	○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

歌唱教材やピアノ伴奏の予習
授業で学習した内容についての復習

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
図画工作演習		〔2〕	**保**	**2**	**堀則雄**

Ⅰ　主題

この授業では、保育者として必要な「子どもの造形表現活動の基礎的・基本的な知識や技能」を、演習を通して習得する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子どもの発達特性を捉えた造形演習を通し、保育者として必要な総合的な表現活動の知識・技能を習得することができる。
2.子どもの表現と素材との関わり等を学び、表現意欲を高める素材や活動について理解を深める。
3.子どもの造形活動や作品に込められた子どもの思いや願いを、子どもの視点で理解し、受け止めることができる。

Ⅲ　授業の概要

演習を通して、保育者として必要な幼児造形表現活動の知識・技能について学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	前期オリエンテーション	前期授業の内容説明
2～4.	造形表現の演習1	子どもの興味・関心と表現活動
5～7.	造形表現の演習2	身近にある素材と造形遊び
8～10.	造形表現の演習3	幼児の造形制作過程の理解
11～12.	造形遊びの演習1	素材を生かした遊びと工夫
13～14.	造形遊びの演習2	附属幼稚園とのセッション①
15.	造形遊びの演習3	附属幼稚園とのセッション②
16.	後期オリエンテーション	後期授業の内容説明
17～20.	身近にある素材と造形活動1	フィールドワーク
21～22.	自然素材を生かした造形活動2	素材を生かした造形遊び
23～24.	身近にある自然と造形活動3	素材を生かした造形制作
25～26.	共同制作1	表現活動とコミュニケーション
27～29.	共同制作2	共同制作のよさの理解
30.	作品発表と授業のまとめ	作品鑑賞と授業のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。(必要な資料は配布する。)

Ⅵ　参考書・参考資料

幼稚園教育要領
保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		30	30	40	
総合的造形表現の知識や技能の習得		○	○	○	
表現意欲を高める素材や活動の理解		○	○	○	
子どもの造形活動の理解を深める		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各授業のまとめをし、レポート提出に備えておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

指示された表現用具・材料は各自で準備する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
児童文化		**2**	**保**	**2**	**久保田道子**

Ⅰ　主題
幼児期や児童期の発達の段階を理論的に考察し、文化活動の指導のあり方を探求する。

Ⅱ　授業の到達目標
1.教科書講読をとおして幼児期や児童期の発達の段階を理解する。
2.観察、交流、実習など体験に基づいた理論や実践力を習得する。
3.幼児教育と小学校低学年教育とのつながりを理解する。

Ⅲ　授業の概要
幼児期に続く児童期の特徴を学ぶ。理論を学ぶだけでなく、小学校をはじめ、いろいろな場での観察、交流、体験をすることで、子供にとって大切なものはなにかを探っていく。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、すすめかた
2～5	教科書講読	児童期の心の発達と特徴
6～7	現代の子供の把握	子供観察と新聞記事をとおして
8～9	「生活科」のねらいと内容	指導要領、自分の生活か体験から
10～11	小学校の教室訪問	授業参観、子供との交流
12～13	夏期保育セミナーへの参加	講演、パネルディスカッションを聞く
14～16	障がいを持つ人との交流	訪問、聞き取り、考察
17～18	科学館[るくる]見学	科学的な体験と考察
19～20	学校訪問	生活科の授業参観
21～25	絵本とこども	市立中央図書館の絵本コーナーを見学し、 絵本の読み聞かせ会に参加する。 自分達で絵本の読み聞かせ会を開く
26～28	遊びの学校	手遊び、伝統的な遊びを学ぶ
29～30	まとめ	幼、保、小の連携で大切にしたいこと

Ⅴ　使用テキスト・教材等
揺れる子どもの心と発達　高垣忠一郎　かもがわ出版

Ⅵ　参考書・参考資料
学力を育てる　行田稔彦　旬報社
幼稚園教育要領解説　文科省

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		50	30	20	
幼児期、児童期発達の理解		○	○	○	
子どもの状況の把握と理解		○	○	○	
訪問体験、実践、発表		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
テキストを事前に読んでおくこと。絵本を広く読んでおくこと。
新聞やインターネット等で子供の状況の把握につとめること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
訪問活動、校外での観察・交流活動を重視する。必ず参加すること。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
音楽理論		**2**	**保**	**1**	**河原田潤**

Ⅰ　主題
保育者に必要な音楽に関する理論や知識を、さらに豊かなものにして、応用力を付ける。

Ⅱ　授業の到達目標
1.これまでに習得してきた、音楽表現の知識と技術が保育現場でより活用できるようにする。
2.具体的な音楽用語等への理解を深め、ソルフェージュ力の向上を目指す。
3.自らの弱点を克服することにより、音楽表現になお一層の興味を示せるようにする。

Ⅲ　授業の概要
保育者に必要な基礎的・基本的な音楽理論力の向上を目指す。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1～5	音楽理論の基礎を学ぶ	音符について。 音階と音程について。 拍子について。 三和音とは。 様々な音楽用語と音楽記号について。
6～7	基礎的な和声学	保育者として必要な程度の和声を学ぶ。
8～12	コードネームとコード進行	様々なコードネームを学び、それらを組み合わせて 楽譜を読み取り、自分なりに伴奏付けが出来るようにする。
13～14	音楽理論の知識と技術の確認	お互いに伴奏し合い、保育現場で必要な実践的な知識と 技術を確認する。
15	まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等
「ミッキーといっしょ　はじめての楽典ブック」　ヤマハミュージックメディア
「ミッキーといっしょ　はじめての楽典ワークブック」　ヤマハミュージックメディア
※本科1年生時で使ったもので可。
音楽理論ワークブック　ドレミ楽譜出版社

Ⅵ　参考書・参考資料
特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	30		20	
音楽表現の知識と技術を深める	○	○		○	
ソルフェージュ力の向上を目指す	○	○		○	
音楽表現になお一層の興味を示す	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
音楽理論を深く知ることは今後の自分を豊かにし、楽にする。よって常に楽譜に親しむこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
楽譜やコピー等を粗末に扱わないこと。「ミッキーといっしょ～」は本科時に使用したものを使うので、新規購入の必要は無い。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
絵画		〔1〕	**保**	**1**	**木下藍**

Ⅰ　主題
この授業では、絵画と描画への関心を深め、鑑賞と考察、描画と展示を試み、絵画の知識と理解を深める。

Ⅱ　授業の到達目標
1.絵画と絵画表現に関心と親しみを持ち、絵画の理解を深めることができる。
2.絵画の歴史や鑑賞方法を学び、多様な絵画表現を味わい考察ができる。
3.描画と表現を多様に試し、描画と作品、展示の意義を理解できる。

Ⅲ　授業の概要
主に演習を通して絵画と絵画表現の基礎的な理解・知識を習得する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　オリエンテーション	授業の内容説明
2.　絵とのかかわりを確かめる	自分と絵のかかわりを確かめる
3.　美術史1	世界の美術史について知る
4.　美術史2	日本の美術史について知る
5.　美術館で作品を鑑賞する	美術作品を鑑賞する
6.　美術館で作品を鑑賞する	美術作品について考察する
7.　美術館で作品を鑑賞する	美術館と美術作品について話し合う
8.　描画を確かめる	みることと描くことについて
9.　描画を試みる1	身近な材料で描画する1
10. 描画を試みる2	身近な材料で描画する2
11. 絵画制作1	テーマに沿った材料、描画方法について考察する
12. 絵画制作2	テーマを持った制作
13. 絵画制作3	テーマを持った制作と展示計画
14. 展示と鑑賞	作品展示、鑑賞
15. 鑑賞とまとめ	授業のまとめと振り返り

Ⅴ　使用テキスト・教材等
必要な用具は各自で持参する。

Ⅵ　参考書・参考資料
必要な資料は配布する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(　)
配点比率(%)　合計 100%		30	30	40	
絵画と絵画表現への関心・考察		○	○	○	
描画の理解と取り組み		○	○	○	
絵画表現と鑑賞の理解を深める		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
授業で使う材料・持物の事前準備。
レポートの提出に備え、各授業の内容を確実にまとめておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
授業に必要な用具と材料は、各自で持参する。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
保育学特論	**4**		**保**	**1**	**前浦律子**

Ⅰ　主題

この授業では、「子どもの遊びをどう理解するか」、「どう保育を構想するか」について明らかにし、子ども理解を深め、保育の専門性を高めることを目標とする

Ⅱ　授業の到達目標

1.文献購読を通して、遊びの重要性について理解を深め、専門性を高める。
2.子どもを観察し、エピソード記述に表すことができる。
3.エピソード記述を分析、考察し、保育の質を高める。

Ⅲ　授業の概要

文献購読を通して子ども理解を深める。さらに、保育現場で実際に子どもを観察し、エピソード記述に表し分析、考察する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	オリエンテーション	授業内容の概略と計画
2～15.	文献購読 ・遊びを中心とした保育とは ・子どもの遊びを理解する ・子どもの遊びを援助する ・保育に生きる記録とは ・保育記録のなかの計画性 ・育ち合う子どもと保育者 ・行事のとらえ方と指導 ・子どもと保育者が織りなす生活 ・遊びの意義、再確認 ・総合的な学びを保障する ・保育者の役割	文献を分担して読み進め、「子どもの遊びをどう理解するか」「どう保育を構想するか」について、明らかにしていく。
16.	観察法について	子どもを“見る”こととは
17～29.	エピソードをもとに討論	各自のエピソードを発表し、考察し合う
30.	後期のまとめ	後期のまとめのレポート作成

Ⅴ　使用テキスト・教材等

遊びを中心とした保育　　河邉貴子　　萌文書林

Ⅵ　参考書・参考資料

授業内に適宜、紹介する。
幼稚園教育要領解説
保育所保育指針解説書
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		80		20	
子どもの遊びについての理解		○		○	
子どもを観察しエピソード記述に表す		○		○	
エピソード記述の分析、考察		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

提示された文献を事前に学習し、発表の準備をする。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業には、自分の考えを持って意欲的に参加する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
教育心理学特論		**2**	**保**	**1**	**土屋廣人**

Ⅰ 主題
主に乳幼児期の発達について教育心理学の視点、特に発達と学習・発達課題について学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標
1.発達過程及び変化の指標について理解し、発達的見方を身につける。
2.変化の指標に沿った行動について理解し、保育に活用できるようにする。
3.さらに、乳幼児期の発達が児童期以降に与える影響について理解し、支援力を高める。

Ⅲ 授業の概要
乳幼児の発達と教育に関する文献を自らまとめ、意見交換する。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 発達と教育1	発達と教育の関係を学ぶ
2. 乳幼児期の発達と教育1	0 歳児の教育について学ぶ
3. 乳幼児期の発達と教育2	1 歳児の教育について学ぶ
4. 乳幼児期の発達と教育3	2 歳児の教育について学ぶ
5. 乳幼児期の発達と教育4	3 歳児の教育について学ぶ
6. 乳幼児期の発達と教育5	4 歳児の教育について学ぶ
7. 乳幼児期の発達と教育6	5 歳児の教育について学ぶ
8. 発達課題と教育1	発達課題と虐待の影響について学ぶ
9. 発達課題と教育2	社会適応と発達課題の関係について学ぶ
10. 発達課題と教育3	不適応児童への対応について学ぶ
11. 発達課題と教育4	不適応児童への対応について学ぶ
12. 障碍児の発達と教育1	障碍児の発達について学ぶ
13. 障碍児の発達と教育2	治療理論について学ぶ
14. 障碍児の発達と教育3	保護者支援について学ぶ
15. まとめ	これまでの授業をまとめる

Ⅴ 使用テキスト・教材等
教師を目指す学生のための教育心理学　今川峰子　みらい

Ⅵ 参考書・参考資料
発達の扉（上）　白石正久著　かもがわ出版
不思議現象 ： 子どもの心と教育　菊池聡，木下孝司編著　北大路書房

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
発達的見方を身につける		○	○	○	
子どもの行動の理解と応用		○	○	○	
発達支援の重要性の理解		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
提示された文献等を事前に学習し、発表の準備をする。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
主体的な授業参加態度が求められる。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
学校教育社会学特論		**2**	**保**	**2**	**前浦律子**

Ⅰ　主題

この授業では、幼児教育の歴史や現状を捉え、社会の変化に伴って発生する今日的課題（政策）について分析、検討し、保育者としての専門性を高めることを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.幼稚園教育の歴史的変遷を理解することができる。
2.幼稚園教育要領の変遷を通して、日本の幼児教育思想を理解することができる。
3.幼児教育の現状を捉え、今日的課題を吟味することができる。

Ⅲ　授業の概要

幼稚園教育の歴史的変遷を捉えるとともに、社会の変化に伴って発生する今日的課題を追究する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	オリエンテーション	授業内容の概略と計画
2.	戦前・戦後の幼稚園教育	戦前、戦後の幼稚園の位置
3.	幼稚園教育におけるカリキュラムの変遷	カリキュラムの変遷と特徴について
4.	幼稚園教育要領の変遷（1）	教育内容と方法論の観点から
5.	幼稚園教育要領の変遷（2）	幼児教育思想の観点から
6.	幼稚園教育の現状と課題	第3の教育改革
7～9.	子ども子育て支援新制度について	幼保一元化・一体化について 認定こども園（幼保連携型認定こども園）の理念 教育課程の編成
10～11.	幼・保・小の接続・連携について	連携の意義 連携の内容
12.		連携の方法 （アプローチカリキュラムからスタートカリキュラム）
13.	地域社会との連携	幼稚園の役割拡大について
14.	特別支援教育	根拠あるアセスメントについて
15.	教員の免許更新制度	免許更新の意義と背景について

Ⅴ　使用テキスト・教材等

資料は、必要に応じて配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

日本の幼児教育思想と倉橋惣三	諏訪義英	新読書社
幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷	民秋　言	萌文書林
学びと発達の連続性	社団法人全国幼児教育研究協会編	チャイルド本社
幼稚園教育要領解説		
保育所保育指針解説書		
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		80		20	
幼児園教育の歴史的変遷の理解		○		○	
幼児教育の思想の理解		○		○	
今日的課題（政策）についての理解		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・個人の問題意識をもって講義に参加する。
・参考文献は、自主的に読んでおく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

発表をもとに授業を進めるので、担当箇所については資料を作成し、責任を持つ。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育内容研究（健康）		**2**	**保**	**1**	**鈴木雅裕**

Ⅰ　主題
領域「健康」の内容を理解し、保育内容の実践力を高める。

Ⅱ　授業の到達目標
1.領域「健康」のねらい・内容を理解し、乳幼児の健康的な生活を支援できる。
2.乳幼児の身体発達について学び、健全な身体発達を促すことができる。
3.園における諸活動を保護者に理解してもらうための「園だより」を作成できる。

Ⅲ　授業の概要
領域「健康」に関わる内容を学び、園だよりの作成を通して実践方法を学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.領域「健康」とは	領域「健康」の内容
2.領域「健康」のねらいと内容 1	幼稚園教育要領
3.領域「健康」のねらいと内容 2	保育所保育指針
4.乳幼児期の身体発達 1	身体発育
5.乳幼児期の身体発達 2	機能発達
6.基本的生活習慣 1	基本的生活習慣確立の意義
7.基本的生活習慣 2	基本的生活習慣の内容
8.健康管理	健康観察、健康相談、感染症予防
9.安全教育 1	園内の事故と危険防止
10.安全教育 2	交通安全および防犯対策
11.安全教育 3	自然災害への対応
12.園だより 1	園だよりの作成
13.園だより 2	園だよりの作成
14.園だより 3	園だよりの作成
15.まとめ	まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等
必要に応じてプリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

新訂　子どもと健康	菊池秀範・石井美晴(編著)	萌文書林	
子どもに伝えたい年中行事・記念日	萌文書林編集部	萌文書林	2010

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	40	15		45	
基本的生活習慣の意義・内容の理解	○	○			
乳幼児における身体発達の理解	○	○			
安全教育の内容の理解	○	○			
園だよりの作成	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
保育者として、自らの基本的生活習慣を見直すことに取り組むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
グループでの活動を行うので、活動に支障がないよう出欠席には注意すること。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
保育内容研究（人間関係）		**2**	**保**	**2**	**岡村由紀子**

Ⅰ　主題

［人は、人の中で生きる動物であると言われるように人間関係は、子どもが育つ上で重要である。そこで、人間とは何か？人間関係は、人間にとってどういう意味を持つのか？と根本的な問いかけをし、深く人間関係を掴み、乳幼児期の人間関係論を深め、高い専門性が身につくことを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.乳幼児からの人と関わる力』の発達を理解し、人間関係を深める。
2.「気になる」子、虐待など様々な現代の子どもの問題を人間関係の視点でを学び、考察する。
3.さらに、現代の保育・子育てにあるニーズの理解、問題の整理、保育実践力を身につける。

Ⅲ　授業の概要

毎回テーマにふさわしい授業プリントを用意し事前に配布し、授業前に学習テーマを理解して参加する。当日は、事前学習を前提に、テーマに沿って、参加者が意見を述べ、テーマ内容を深め、まとめていく。授業を通じて現代社会の複雑化・多様化している人間関係の本質・課題・応用を学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.人間関係とは何か―1	人類の誕生から学ぶ
2.人間関係とは何か―2	歴史から学ぶ
3.関わる力とは何か	チンパンジーの子育てから学ぶ
4.関わる力を育てる意味	人間が生きることと関わって考察
5.年齢別人間関係力の育ち―1	乳児期
6.年齢別人間関係力の育ち―2	幼児期
7.特別なニーズを持つ子ども達―1	障害を持つ子どものニーズ
8.特別なニーズを持つ子ども達―2	虐待される子ども達のニーズ
9.人間関係と想像性	想像性の発達
10.大人の人間関係―1	親子の人間関係
11.大人の人間関係―2	保育者の人間関係
12.大人の人間関係―3	父母・保育者・地域の人間関係
13.施設見学	
14.施設見学	
15.まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは、使用しない。毎回プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

保育内容・人間関係　　金田利子・齋藤政子編著　同文書院

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	50	30	10	10	
人間関係の本質的理解、発達の理解	○	○		○	
特別なニーズの理解、問題整理力	○	○		○	
応用力、保育実践力	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・日頃、新聞・ﾃﾚﾋﾞなどを通して現在に生きる『子ども達の姿』を捉え、まとめ、発表をする。
・次回授業のプリントを読み要旨をまとめ、自分なりに考察をして意見をまとめたプリントを作成し、当日の授業前に提出する

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回授業後、小レポート提出

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
保育内容研究（ことば）		**2**	**保**	**1**	**小野田貴夫**

Ⅰ　主題

自己表現、コミュニケーション、想像力の喚起といった側面について、言葉の発達及び習得の観点から、如何に充実させていくか考察する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.言葉による自己表現を促す方法を提示できる
2.楽しいコミュニケーションが可能となる条件を設定できる
3.言葉を主とする遊び方・楽しみ方の実施計画が立てられる

Ⅲ　授業の概要

言葉の発達に応じた保育環境について計画・調整できるようになるための知識を、様々な場面や操作対象を取り上げながら、グループワークを通じて身につけていく。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 乳幼児期のコミュニケーション様式	母子関係、愛着、共同注視について
2. 言語発達の過程と対人関係	言葉の発達と家族・社会関係の変容
3. 言語発達の土台作り	保育者の関わり・コミュニケーション環境
4. イメージの生成と言葉	言葉によるイメージ生成の仕組み
5. 言葉と遊び	言葉で「楽しみ」を生み出す場面・方法
6. 絵本と言葉	絵、言葉、歌による絵本コミュニケーション
7. 歌と言葉	歌の中の言葉・歌によるコミュニケーション
8. 映像・絵画と言葉	絵画表現の発達と言葉の関係
9. 文字の習得	文字に対する意識の変化
10. 言語発達の個人差	自己表出志向と指示表出志向
11. 言語発達と性差	性差による言語表現の傾向の差異
12. 心身の障害と言葉	障害に応じたコミュニケーション
13. 聴覚障害・視覚障害と言葉	手話・点字について
14. 発達障害と言葉	共同注意と言語習得について
15. まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

資料を配布する

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	60		30	10	
自己表現を促す方法を提示できる	○			○	
コミュニケーション条件を設定できる	○			○	
遊び方の実施計画が立てられる	○		○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

グループワーク等では、積極的に参加し、発言すること。私語は慎むこと。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
保育内容研究（音楽表現）		**〔2〕**	**保**	**2**	**難波麻美**

Ⅰ　主題

この授業では、幼児の音楽表現活動を広げていく為に必要な知識と技術の習得を目指す。

Ⅱ　授業の到達目標

1.保育者に必要な音楽の基礎知識と基礎技能を習得し、現場で応用できるようにする。
2.幼児の音楽表現活動の援助の仕方、指導法や留意点を、実践しながら考察する。
3.保育者自身の音楽的能力や表現力を向上させ、音楽的感性を磨く。

Ⅲ　授業の概要

授業は、2年次後期の半期で行う。現場に向けての直前対策として、講義やグループによる演習形式で行う。発表の機会多い。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.「音楽表現」とは	感性と表現に関する領域と私
2.幼児音楽教育の世界	世界共通のうた
3.保育者の音楽的基礎知識の確認	楽典、歌唱力、ソルフェージュ力
4.保育者の音楽的基礎技能、技術の確認	ピアノ到達度
5.日常の音楽教育活動①歌唱力	姿勢・呼吸・発声を学び表現
6.日常の音楽教育活動②伴奏法	幼児の歌唱、合奏における効果的伴奏
7.日常の音楽教育活動③作曲法	創作描き歌
8.伝統的な音楽遊びと活動①歌唱法	伝承遊び、わらべ歌の意義
9.伝統的な音楽遊びと活動②伴奏法	日本のリズム、音階
10.伝統的な音楽遊びと活動③編曲法	現場で必要な編曲の知識
11.楽器奏法①	楽器の種類と奏法の工夫、指導法
12.楽器奏法②	アンサンブルの楽しさ、個人の技量を知る
13.創作音楽劇①	テーマをもとに台本、音作り
14.創作音楽劇②	発表と討議
15.授業まとめ	
定期試験	筆記試験、課題提出、音楽表現で行う

Ⅴ　使用テキスト・教材等

幼児のうた　130 選　　繁下和雄編　　全国社会福祉協議会

Ⅵ　参考書・参考資料

実践しながら学ぶ子供の音楽表現	石井玲子:編著	保育出版社
授業のための日本の音楽・世界の音楽	島崎篤子・加藤冨美子著	音楽之友社
子どものための音楽	オルフ他	ショットミュージック

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	提出課題	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	20	30		
音楽の基礎知識と基礎技能の習得	○	○			
幼児の音楽表現活動の考察			○		
技術の応用	○	○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業で学んだことを、実生活の中で意識的に実践してほしい。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

グループでの演習が多いため、欠席する場合はできるだけ早めに伝えるようにすること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育内容研究（造形表現）		**〔2〕**	**保**	**2**	**小倉隆**

Ⅰ　主題
子どもの造形活動・表現の援助のあり方を、演習を通して視野を広げ考察する。

Ⅱ　授業の到達目標
1.造形要素を主題にした造形あそびを考察することができる。
2.造形要素を主題にした絵本を考察する。
3.造形要素を主題にした表現ができるようになる。

Ⅲ　授業の概要
造形の要素を主題とした造形あそびを試し、考察することで造形の観点を広げる。造形の要素を主題とした絵本を考察し、造形を主題にした表現（創作絵本）を試みる。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	前期オリエンテーション	授業の説明
2～6.	造形あそび(1)	「点」「線」「形」の造形あそびを試す
7.	造形あそび(1)を考察する	造形あそび(1)を考察する
8～14.	造形あそび(2)	「点」「線」「形」の造形あそびを試す
15.	造形あそび(2)を考察する	造形あそび(2)を考察する
16～21.	絵本を考察する	造形を主題とした絵本を考察する
22～27.	絵本を創作する	造形要素を取り入れた絵本を創作する
28.	創作絵本の紹介と考察する	創作した絵本の紹介と考察を行う
29～30.	授業のまとめ	授業の振り返りとまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等
テキスト：必要な資料は配布する

Ⅵ　参考書・参考資料
参考資料　英語版 Little Blue and Little Yellow/Swimmy ; Leo Lionni　可能であれば各自で購入すること。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他
配点比率(%)　合計 100		30	30	40	
造形あそび・造形要素の関心と理解		○	○	○	
造形あそび・表現の理解		○	○	○	
制作表現の関心と技能		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
・授業での取り組みをファイルにまとめておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
・授業で関心を持った関連事項に積極的に取り組むこと。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
保育学方法論		**4**	**保**	**1**	**竹石聖子、鈴木久美子**

Ⅰ　主題
保育研究のための方法論について学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標
1.観察及びエピソード記述を行い、子どもの行為の意味や保育者の思いについて深く考察できる。
2.調査研究の基本的な方法を理解することができる。
3.調査の実施とデータ分析を行い、結果を発表することができる。

Ⅲ　授業の概要
前期は観察法及びエピソード記述、後記は調査票調査を実施する。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1～2.	保育研究とはなにか 観察法の意義について	保育者が子どもを見るということ
3～5.	エピソード記述とはなにか	エピソード記述の目的と書き方を学ぶ
9～11.	観察をもとにエピソード記述を行う	各自がエピソード記述を行う
12～14.	エピソード記述の考察	全体で読み合い、討議を行う
15.	エピソード記述集の作成	エピソード記述集を作成する
16.	調査の種類と方法	調査の種類と方法を学ぶ
17.	調査レポートについて	調査レポートの書き方を学ぶ
18.	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションの方法について学ぶ
19.	調査の企画	どのような調査を実施するか企画する
20～22.	調査票の作成	調査票を作成する
23～26.	調査の実施とデータ分析	調査を実施し、収集したデータを分析する
27～29.	レポートの作成	調査レポートを作成する
30.	調査結果の報告 定期試験	情報機器を活用し、調査結果報告会を実施する レポート

Ⅴ　使用テキスト・教材等
子どもの心の育ちをエピソードで描く　　鯨岡峻　　ミネルヴァ書房　　2013

Ⅵ　参考書・参考資料
授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	40		60		
エピソード記述についての理解と考察			○		
調査方法についての理解と考察	○		○		
調査票の作成と実施、結果発表	○		○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
前期はエピソード記述を書き集めること。後期は計画に従って、調査票調査を実施すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
論文に直接つながる学習である。授業時間外の学習がきわめて重要になる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育臨床学特論		**2**	**保**	**1**	**岡村由紀子**

Ⅰ　主題

この授業では、現代社会におかれている子どもの状況を多面的につかみ、その課題を明らかにし子どもの発達保障をする為の、理解力・実践力の高い専門性が身につくことを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子どもを取り巻く状況を歴史的・社会的・文化的に考察する。
2.保育場面における子どもの表れを「自我形成の発達」に視点にあて学ぶ。
3.その上で幼児期から思春期を見通した保育の理論を理解し、実践力を身に付ける

Ⅲ　授業の概要

この授業では、テキストを参考に、テーマを中心に論議を進めていく。
論議を通じて、現在の保育場面における課題や問題を明確化し、理解力・問題整理力を身につけ実践力の高い専門性を身につける。。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.育ってきた時代を振り返る	戦後の歴史を中心にする。
2.子どもの中に見る社会	子どもの表れと社会の動きの比較。
3.あそび文化を通してみる子ども	あそびの歴史を中心にする。
4.あそびの意義	発達の視点から考察する。
5.あそびの構造	保育構造の中で捉える。
6.自我形成の発達と保育	発達とは何かを中心にして学ぶ。
7.自我形成－1	乳児期〔0－2 歳児〕
8.自我形成－2	幼児期〔3－5 歳児〕
9.自律的自己コントロール形成と保育	自己主張期・集団に働きかけ期
10.自律的自己コントロール形成と保育	自己コントロール期
11.気になる子を含む個と集団－1	個と集団の発達の比較
12.気になる子を含む個と集団－2	実践の実際と指導について深める。
13.施設見学	
14.施設見学	
15.「求められる保育」について	発表・討議

Ⅴ　使用テキスト・教材等

4 歳児の自我形成と保育　　岡村由紀子・金田利子共著　　ひとなる書房

Ⅵ　参考書・参考資料

気になる子と言わない保育　　赤木和重・岡村由紀子編著　　ひとなる書房

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	50	20	20	10	
保育現場の課題や問題を理解	○	○			
様々な問題を整理し課題を生み出す		○	○		
応用力、保育実践力	○	○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・ 日頃、新聞・ﾃﾚﾋﾞなどを通して現在に生きる『子ども達の姿』を捉え、まとめ、発表をする。
・ 授業の中で出る様々な他者の意見や保育実践の理論がどこにあるのかを授業後、自分なり考え、まとめる。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回授業後、小レポート提出

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
臨床心理学特論		**2**	**保**	**1**	**里村澄子**

Ⅰ　主題

この授業では、臨床心理に関する知識を元に心の有り様を理解する方法を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.臨床心理の知識を理解し、自分の心の動きが観察できるようにする。
2.関わりながら他者を理解する姿勢を体得し、そのためのコミュニケート能力を高める。
3.心理臨床で培った知見をもとに、問題を抱えた人の理解・支援に応用できるようにする。

Ⅲ　授業の概要

臨床心理に関する知識を理解するとともに、子どもの観察と同時に背後にある家庭等保育環境を構造的に捉えながら個人を支える心理援助の方法を探る。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1 臨床心理学を学ぶ意味について	「床に臨む理解」の仕方について考える
2 心理臨床の課題と研究	関与しながら観察し理解する心理臨床
3 子どもの心の理解について	傾聴とカウンセリング・マインドーA子のケースから考える
4 ロージャズの人間観	成長を支える相互尊重の姿勢と共感的理解
5 発達課題と心理臨床	発達の節目とその時期のつまずき
6 パーソナリテイー	心の発達と育児環境　ー虐待のケースをもとに考える
7 性格と心理臨床	自己覚知を性格分析から考える
8 適応について	心の働きと適応機制
9 不適応をめぐる諸問題	サインとしての問題行動を考える
10 問題行動の捉え方	治療的接近と行動変容への援助ー情緒障害児のケース
11 個人の心理相談と援助について	認知行動療法の理論と解説
12 心理相談の実際	個人面談による心の癒し
13 グループ参加につなげる心理支援	社会参加へのステップとしての試みと人的支援活用
14 家族への支援について	孤立させない家族へのサポート
15 地域で支える	連携への試みと個人情報の取り扱い方
定期試験	筆記試験

Ⅴ　使用テキスト・教材等

心とかかわる臨床心理　　川瀬正祐・他　　ナカニシ出版　　1966

Ⅵ　参考書・参考資料

カウンセリンを考える　　河合隼雄　　創元社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	60	20	5	15	
臨床心理の理論理解	○	○		○	
心理臨床に向き合う姿勢について	○	○		○	
記述に見る自他観察力	○	○			
自己理解の進展	○	○		○	
自己表現を促す作品制作			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

テキストを事前に読んでおくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

積極的な授業参加を旨とする。基本的にレポート提出をもって授業参加とする。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
保育研究実習	**(4)**		**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

1年間にわたり常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園、とこは幼稚園両園において研究実習を行う。その中で幼児教育専門職としての職務追行能力を養成しつつ、研究的態度をもって保育を行っていく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自分なりの視点を持って保育に参加することができる。
2.研究的立場から保育を考える姿勢を持つことができる。
3.実習したことを、考察し、記録にまとめることができる。

Ⅲ　授業の概要

実習に当たっては事前・事後指導を行い、附属園ときめ細かい打ち合わせをしつつ、園の実情に即した形で進めていく。

Ⅳ　授業計画と内容

○実習事前指導

○日常の保育場面における実習

○行事への参加における実習

○研究保育に向けた実習

※これらを1年の園の保育の流れに合わせた形で進めていく。

実習期間は
平成 26 年4月～平成 27 年2月
（毎週　火曜日）

Ⅴ　使用テキスト・教材等

特になし

Ⅵ　参考書・参考資料

授業内で必要に応じて指示する。図書館の資料をおおいに活用したい。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(記録等)
配点比率(%)　合計 100%				50	50
目的を持って実習に参加する態度				○	○
保育を省察する態度				○	○
保育の要点を記録する技術				○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自分の研究テーマを活かして実習日誌を書くこと。
実習日誌は、期日内に必ず提出すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

各園の先生方と密に連絡してすすめること。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
専門ゼミナール		〔1〕	**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

自らの研究テーマを見つめ、2年次の修了論文作成につなげていくことを目的とする。各自の興味・関心をもとに選択した教員のゼミナールに所属し、個別に指導を仰ぎながら、自分の研究テーマを学び、深めていく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自らの研究テーマを持ち、研究に取り組むことができる。
2.研究テーマに沿った書籍、論文等の資料収集と購読ができる。
3.計画を立て、見通しを持って論文作成にあたることができる。

Ⅲ　授業の概要

学生自身の選択、教員の認定により所属ゼミナールを決定した後、各教員と進め方を相談しながら以下のように論文作成に向かう。

Ⅳ　授業計画と内容

① 実習・授業その他の経験の整理から、自分が興味や関心を抱けるテーマを絞っていく
② 仮テーマの決定
③ テーマに関する文献等を読み、関心を絞り込んでいく
④ 論文作成に必要なアンケートや観察等の計画を立てる
※①は全体で行う
②～④は担当教員と相談しながら進めていく。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各教員と相談し、必要なものを用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(資料収集)
配点比率(%)　合計 100%			50		50
自らの興味関心を活かしたテーマ設定ができたか			○		○
文献、論文等の資料の収集と購読ができたか			○		○
計画的な研究の遂行ができたか			○		○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各自の計画に沿って自主的に課題に取り組むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

修了論文の作成は、1 年次から始まっている。そのことをしっかり自覚してほしい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育特別研究Ⅰ	〔2〕		**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題
段階的に修了論文作成に向かっていくために、「論文を書くこと」を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標
1.研究とはなにかを理解し、意欲を高めることができる。
2.論文作成に必要な知識を学び、その方法論を理解することができる。
3.さらに、上記を理解することで、具体的な論文作成につなげることができる。

Ⅲ　授業の概要
論文を書くことを最終目的に掲げ、そのプロセスを段階的にたどって学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	修了論文とはなにか	修了論文の位置づけと要件を知る
2.	論文を書くとはどういうことか	論文を書くことの意味、進め方を知る
3.	研究とはなにか	研究の進め方を知る
4～6.	文献研究方法について	文献の集め方、読み方を学ぶ
7～10.	テキストクリティーク①	テキストクリティークのレポート作成
11～13.	テキストクリティーク②	発表
14.	フィールドワークについて①	フィールドワークの方法を学ぶ.
15～18.	フィールドワークについて②	フィールドワークを実施し、成果を発表する
19～20.	テーマのたてかた	テーマのたてかた、深め方を学ぶ
21～22.	調査研究方法について	様々な調査方法を学ぶ
23～24.	論文の書き方	論文の書き進め方を学ぶ
25.	修了論文の書き方	修了論文の具体的な書き進め方を学ぶ
26～29.	研究計画書の作成	研究計画書を作成する
30.	研究テーマの発表	研究テーマを発表する
	定期試験	レポート

Ⅴ　使用テキスト・教材等
よくわかる卒論の書き方（第二版）　白井利明ほか　ミネルヴァ書房　2013

Ⅵ　参考書・参考資料
授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	10	40		
研究に対する理解と意欲	○	○	○		
論文作成についての理解	○	○	○		
研究テーマと計画案の設定	○	○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
テキストを事前に読んで、レジュメを作成すること。テーマ毎に与えられた課題に取り組むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
修了論文作成は、1 年次から始まっている。そのことをしっかり自覚してほしい。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
保育特別研究Ⅱ	**〔2〕**		**保**	**2**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

1年次の学びおよび専門ゼミナールで取り組んできた成果を活かし、修了論文を作成する。教員と相談しながら研究方法を決め、文献収集を行い、データを分析し、論文にまとめあげることを到達目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自分のテーマに沿った研究方法で研究を進める。
2.集めたデータをまとめて分析する。
3.自分の研究した内容について説明ができる。

Ⅲ　授業の概要

それぞれの担当教員と相談しつつ、計画的に自らのテーマに沿って論文を作成する。

Ⅳ　授業計画と内容

テーマ	教　員
保育学・教育学関係	前浦律子　竹石聖子　加藤寿子
心理学関係	大村壮　金子泰之
社会福祉関係	鈴木久美子
表現関係	小倉隆
運動・健康関係	鈴木雅裕　遠藤知里

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各自のテーマに即して、担当教員と相談して選定する。

Ⅵ　参考書・参考資料

各自のテーマに即して、担当教員と相談して選定する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%			100		
自己課題を明確に表現した論文作成			○		
データ収集の方法の妥当性			○		
プレゼンでの表現の仕方			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自分の研究計画に従って、自主的に進めていく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

途中経過をきちんと担当教員に報告すること。
※評価に関する補足：担当教員の論文審査に加え、修了論文発表会の様子等も加味して綜合的に評価する。